

## 平成28年度事業計画書 (平成28年4月1日～平成29年3月31日)

### 1. 学術研究助成事業

感染症の基礎的あるいは臨床的研究及び感染症に関する疫学的研究を行っている若手の個人を対象に、一般細菌感染症、ハンセン症、リケッチア症、寄生虫病などの研究課題に対して、公募により申請された研究計画を審査選考の上、本年度は第43回目の学術研究助成金受贈者を決め、3月に贈呈する。

総額800万円（1件100万円）予算計上。

### 2. 顕彰事業

顕彰事業である次の各賞について、公募推薦された個人を審査選考の上、表彰を行い当該事業における一層の拡充を図る。

#### (1) 平成28年度「第43回大山健康財団賞」

発展途上国において、長年医療協力に尽くし、特に感染症対策に尽力した医療関係者個人に対し、表彰状、メダル、副賞（100万円）を贈呈する。

#### (2) 平成28年度「大山激励賞」

大山健康財団賞に準ずる功績のあった医療関係者を対象とし、今後一層の活躍が期待される個人に対し、表彰状、副賞（50万円）を贈呈する。

### 3. 学術集会支援事業

本年度は下記の学術集会に対し助成する。

#### (1) 第27回日本臨床寄生虫学会大会開催に助成金30万円を予算計上。

開催期間：平成28年6月18日（土）

開催場所：石川県政記念しいのき迎賓館（金沢市）

大会長：所 正治 先生（金沢大学医薬保健研究域医学系寄生虫感染症制御学 講師）

参加者：約100名

日本臨床寄生虫学会（増田剛太理事長）は、基礎系の寄生虫学者と寄生虫及びその関連疾患を臨床で担当する医師の有志によって開催された1990年2月の「臨床寄生虫研究会」以来、継続的に年次大会として開催されている。

本大会においては、寄生虫に関係する基礎系、臨床系の研究者、医師、さらに検査技師等のコメディカルが、まさに設立目的である「寄生虫感染の基礎と臨床の接点を探る」活発な議論が繰り広げられる。国内における寄生虫感染事例は減少しているものの未だに発生しており、また近年のグローバル化の流れの中で、渡航者や訪日外国人による輸入感染症例や海外産食品を原因とする食中毒など、新たな警戒を要する事態も注目されており、寄生虫感染症対策の担当者間における数少ない情報共有の場として本学会開催の意義は、これまでも増して重要となってきた。

(2) 第9回日本カンピロバクター研究会総会開催に助成金30万円を予算計上。

開催期間：平成28年11月26日(土)

開催場所：杏林大学 井の頭キャンパス F309 講義室

学会長：神谷 茂 (杏林大学医学部感染症学講座 教授)

参加者：約100名

日本カンピロバクター研究会は、本邦における主要な細菌性食中毒原因菌であるカンピロバクターの研究に従事している研究者間での情報交換を推進するため年次総会を開催している。第9回総会では、カンピロバクター腸炎に関する医学・農学を中心とした領域からの報告を中心に討論し、今後の保健医療、食品衛生の改善を図ることを目的とし、特別講演、シンポジウムを予定している。

#### 4. 年報作成

平成26年度大山激励賞受賞者(大山健康財団賞は該当者なし)の紹介及び学術研究助成金贈呈者の業績報告集(年報 No. 41)を作成することとし、30万円予算計上。

#### 5. 寄附金

国際医学研究会(慶應義塾大学医学部学生組織)の第39次派遣団の下記の活動に寄附をすることとし、30万円予算計上。

同研究会は、1978年より毎年南米を中心に世界各地に医学生を派遣し、「医の原点の実体験」および「医学医療を通じた国際交流」、「活動を通じた現地への貢献」を基本指針とし、国際医療活動を行っている。平成28年度は下記の予定である。

訪問日程：平成28年7月16日(土)～8月28日(日) 全44日間

訪問予定国：キューバ(7月16日(土)～7月26日(火))

ブラジル(7月26日(火)～8月28日(日))

#### 6. 公益法人用会計ソフトの導入

会計処理については、これまで本財団手作りの会計ソフトで運用してきたが、より効率的で使い勝手のよい市販の公益法人用会計ソフトを導入し、会計処理の効率化、明確化を図っていきたい。そのための予算60万円を計上する。

以上